

第1学年 図画工作科学習指導案

い組 男子 20名 女子 20名 計 40名
指 導 者 所 崎 陽

1 題 材 なににみえるかな

2 題材について

(1) 題材の位置とねらい

本題材は無造作にちぎられた紙の形や色などを基に、様々に向きを変えて見たり、想像をふくらませ、自分なりのイメージをもち、いろいろな見方ができる楽しさを味わう造形遊びの題材である。

この期の子どもたちは、様々な表現方法を試しながら、身近なものに体全体を使ってかかわり、つくる活動そのものを楽しむ傾向にある。さらに、見たり、加工したりするな、作品や材料の形や色をとらえ、自分なりのイメージをもつ姿が見られる。そして、自分自身と対話をしたり、友達と話をしたりしながら、発想を広げ自分なりのイメージをもつこともある。

また、これまでに子どもたちは、身の回りのものの形や色などの特徴を手がかりに、見立てる活動を通して、新しく自分が考えたものに例える活動をしてきている。このとき、目の前の形や色などの特徴を見付け、よく見たり、話したりするなど、自分なりのイメージをもつ様子が見られる。さらに、自分なりのイメージをもつ過程には、思考を働かせ試行錯誤し、見立てる活動そのものを楽しむ姿がある。

そこで、様々な紙を見立てる活動をするとは、向きを様々に変えて見たり、でこぼこな感じを感じ取ったりして、今まで見えなかった新しいものに見えることになり、見立てる活動に楽しみながら取り組むことができる。また、見立てる活動をするとは、向きが変わることで様々なものに見えてくる活動を通して、思考を働かせながら新たな発想を生み出し、自分の見方を広げ、発想や構想の能力を高めることができる。そして、向きを変えて見ると見立てたものが変わっていくことに気付いたり、見立てるまでの活動を友達と話して振り返ったりすることは、紙の形や色などの特徴を感じ取ることができ、鑑賞の能力を高めることができる。さらに、ものの見方を広げることのよさを理解することやつくりたいものに合わせて用具を適切に使い、紙を切ったり、つないだりすることは、造形的な知識・理解、技能を高めることができる。

このように、紙の形や色などを基に、自分なりのイメージをもつ活動は、第1学年の題材「ようこそ すなのくにへ」で、体全体を使って場所や材料の造形的な特徴をとらえながら、発想をふくらませ、自分でつくる砂の世界を楽しむ活動へと発展していく。

(2) 指導の基本的な立場

紙は、多くの色がありとても軽く、ちぎる、切る、貼るなど、子どもたちにとって容易に加工することができる。子どもたちにとってとても扱いやすい材料である。さらに、使い慣れたパスなどを使って、思いのままに着色できる。したがって、形を容易に変えたり、多くの色を選んだりできる紙は、自分なりのイメージをもちやすく、つくりたいものを意欲的につくることができる。

そこで、見立てる活動が充実するように、見立てる方法や見立てたものがもっとそれらしく見えるための工夫について考えることができるようにする。でこぼこした形や紙の色などを手がかりに発想をふくらませ、見立てる方法を見付けたり、別な紙をつないでもっとそれらしく見えるようにし、自分なりのイメージをもてるようにする。また、向きを変えて見るとつぶやいた言葉や友達が見立てたことについて話していることを取り上げ、自分の見方や考え方のよさに気付けるようにし、自分なりのイメージをもてるようにする。さらに、ものの見方を広げるよさを理解できるように、自分や友達の見立ての活動を振り返ったり、今までの経験を生かして、自分の表したいことに合わせて、はさみやのりなどの用具を適切に用いたりすることができるようにする。

このような見立てる活動を通して、紙の形や色などを基に自分のイメージをもち、想像力を働かせながら、自分が表したいことを表し、意欲的に製作する楽しさや喜びを味わい、創造的につくっていく能力や態度を培うことで表現へのこだわりをはぐくむことができると考える。

(3) 子どもの実態

本学級の子どもたちはこれまでに日常生活の中で、あるものを別なものに見立てるような経験をしてきている。さらに、紙や箱など身近な材料を使って自分のつくりたいものをつくってきている。このような経験を基に、子どもたちは自分の思いを作品に表し、つくる喜びを味わってきている。しかし、つくすることに意欲的でない子どもが3名いる。(※1) そのため、意欲的に取り組めるように、**材料である紙とふれ合う場を十分に確保したり、見立てることの楽しさを味わえるようにしたりする。**ちぎられた紙を別なものに見立てることができた子どもは31名いる。低学年らしく、動物や昆虫などに見立てた子どもが多かった。見立てられなかった子どもが9名いた。(※2) 見立てることができるようにするために紙全体だけでなく、**紙の一部分でこぼこした形などに目を向けさせるようにする必要がある。**さらに、新しく別なものに見立てた子どもは23名いた。(※3) 見立てられなかった子どもと学

実態調査	1年い組	40名	(4月中旬実施)
1	紙や箱でものをつくるのは好きですか。(※1)	はい(37名)	いいえ(3名)
2	ちぎられた紙は何かに見えますか。(※2)	見える(31名)	見えない(9名)
	〈見えたものの内容〉 ・ラクダ ・馬 ・恐竜 ・タツノオトシゴ ・犬 ・チョウ ・狼 ・電車 ・人間 ・水道		
3	2で見えたものの他に、同じちぎられた紙で見立てた子ども。(※3)	(23名)	
4	紙を回して、見立てをする子ども。(※4)	回す子ども(34名)	回さない子ども(6名)
5	友達などの作品をじっくり見たことがありますか。(※5)	ある(25名)	ない(15名)
	〈見て感じたことや心に残っていること〉 ・ドングリなどの材料 ・桜の花の色 ・ロボットの形 ・ザリガニの大きさや色 ・楽しく遊ぶ様子 ・好きな赤色をしたバラ ・キラキラ光る色 ・ハートの形 ・花火の色 ・段ボールでつくったギター ・虎の強そうな顔		
6	ふえきのりをつかったことがありますか。(※6)	ある(21名)	ない(19名)

び合える場を設定することで、様々な見方ができるようにする。紙を回しながら見立てた子どもは34名いた。(※4) **紙の形や色などを基に、思考を働かせながら自分なりのイメージをもとうとする姿が見られた。**紙を回さない子どもが6名いたので、回しながら考えるよさに気付けるように、回しながら見立てた子どもの考えを取り上げる。また、友達などの作品について、感じたことや思ったことがある子どもは25名いた。中には、**形や色などについて感じ取っている子どももいた。**一方、そうでない子どもは15名いた。(※5) 身の回りの作品について目を向け、自分の考えにも生かせるように、言語活動を取り入れ、自分の思いを話す場を設ける。さらに、ふえきのりを使ったことのない子どもは19名いた。(※6) **体でのりの量を感じたり、さわった感じを味わったりしながら製作できるように、ふえきのりの使い方を掲示資料を使って、理解できるようにする。**

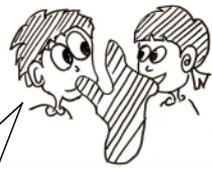
(4) 指導上の留意点

- ア 紙を使って見立てる活動に興味をもてるように、**紙をちぎる活動とちぎった形から見立てる活動の場を設定する。**その際、見立てやすく、いろいろなものに見立てられるものが**こぼこした形をしていることに気付けるようにしたい。**さらに、見立てる活動に遊び性のあるものを取り入れ、友達と学び合いながら、自分なりのイメージをもって意欲的に活動ができるようにしたい。
- イ 見立てる活動をする際に、**発想をふくらませながら取り組めるように、紙全体の形だけでなく一部分の形にも目を向けられるようにしたい。**さらに、見立てる活動が充実するように、新たに紙をつなげてもっとそれらしく見えるようにしたり、台紙の紙に貼ってまわりの様子を書き込んだりしたい。
- ウ **形や色などを基に、自分なりのイメージがもてるよう、自分が見立てたものについて話をできるようにしたい。**その際、「この部分がこんなふうに見える」といった、自分なりのイメージについて話せるようにしたい。
- エ 自分が見立てたものがもっとそれらしく見えるように、はさみやのりの使い方を理解できるようにしたい。その際、適切な用具の使い方を示した掲示資料を用意し、いつでも振り返ることができるようにしたい。

3 目 標

- (1) 無造作にちぎられた紙の形や色などを基に、様々なものに見立てる活動を楽しみながら取り組むことができる。
- (2) ○ 紙の向きを様々に変えたり、でこぼこな感じを感じ取ったりしながら、見立てる活動を通して、見立てたものがよりそれらしく見えるように工夫することができる。
 - 向きを変えると見立てたものが変わっていくことに気付いたり、見立てたものについて友達と話したりして、自分や友達の見え方や考え方のよさを感じ取ることができる。
- (3) 見立てる活動を通して、ものの見方を広げるよさを理解したり、はさみやのりなどの用具を表したいことに合わせて適切に用いたりすることができる。

4 指導計画（全2時間）

過 程	主 な 学 習 活 動	時間	教師の具体的な働きかけ
動機付け 発想	1 ちぎられた紙とそうでない紙を見比べて何に見えるかを話合う。 みるポイント でこぼこしたかたち、いろ、むき 2 学習のめあてについて話し合う。 ちぎったかみをへんしんさせよう。	↑	○ 材料である紙の特徴をつかませるために、紙をちぎる活動を取り入れる。 ○ 見立てる活動の楽しさを感じ取れるように、自由にちぎらせ、でこぼこした紙とそうでない紙とを見比べさせる。 ○ 見立てるコツを見付けられるように、でこぼこした形が見立てやすいことや向きを変えることで見え方が変わってくることに気付かせる。 ○ 自分なりのイメージをもてるように、紙をでこぼこにちぎったり、向きを様々に変えたりしている子どもを賞賛し、全体の場で紹介する。 ④ 見立てることができない子どもには、紙を回して様々な見方ができるようにしたり、でこぼこした形に目を向けさせ、その紙のもつ形の特徴に気付かせたりする。
製 作 材料への挑戦	3 試しに、紙をちぎって見立てたものについて友達に話す。 ちぎってみると、いろいろな形のものできたよ。でこぼこした形をしていると、いろいろなものに見えるんだね。 		
材料の追究	4 ゲーム形式で、見立てる活動をする。 僕は象に見えたけど、友達は水道の蛇口に見えたんだ。いろいろな見え方があるんだな。 	↓	○ 見立てたことが、もっと自分ではっきり分かるように、新たに紙をつなげたり、色を塗ったり、台紙に貼って周りの様子をかき込んだりする。そして、自分なりのイメージをもてるようにする。
鑑 賞 評価	5 「もっとはっきりみえるよ。ぼく、わたしのかみ」をする。 6 見立てる活動のよさを振り返る。 形や色を基にすると、いろいろなものに見えたな。 	↑	○ 見立てたことが、もっと自分ではっきり分かるように、新たに紙をつなげたり、色を塗ったり、台紙に貼って周りの様子をかき込んだりする。そして、自分なりのイメージをもてるようにする。 ○ 今後の学習に生かせるように、見立てる活動を振り返らせ、形や色などを基に自分なりのイメージをもつよさに気付かせる。

5 本 時 (1 / 2)

(1) 目 標

ア 紙の向きを様々に変えながら、無造作にちぎられた紙の形や色などを基に、自分なりのイメージをもって、楽しみながら見立てる活動に取り組むことができる。

イ 無造作にちぎられた紙の形や色などを基に、向きを変えたり、友達と話をしたりしながら発想を膨らませ自分なりのイメージをもち、様々なものに見立てることができる。

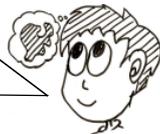
ウ 無造作にちぎられた紙の形や色などを基に、向きを変えながら様々なものに見立て、そのことについて友達に話し、自分や友達の感じ方や考え方のよさを感じ取ることができる。

エ 無造作にちぎられた紙の形や色を基に、自分なりのイメージをもち、新しいものに見えてくる見立てのよさを理解することができる。

(2) 本時の指導に当たって

材料である紙と十分ふれ合えるようにちぎる活動を取り入れ、そのことを基に、見立てる活動へとつなげる。見立てる活動では、主体的に取り組めるようにするために、見立てやすい形とそうでない形とがあることに気付かせ、自分なりのイメージを持てるようにしていく。さらに、友達が見立てたことのよさにも気付けるように、ゲーム形式で活動を行う。

(3) 実 際

過 程	主 な 学 習 活 動	時 間	教 師 の 具 体 的 な 働 き かけ
動機付け 発想	1 紙を様々な形になるようにちぎり、何に見えるかを話し合う。	(分)	○ ちぎることで様々な紙の形ができることに気付かせるために、紙を思いのままにちぎるようにする。
	2 学習のめあてについて話し合う。 ちぎったかみをへんしんさせよう。	5	○ 見立てる活動の楽しさに気付かせるために、ちぎられた紙の形から何に見えてくるか感じたことを発表できるようにする。
製作 材料への挑戦	3 試しに紙をちぎり、どのような紙が見立てやすいかを考える。  ちぎった紙をよく見ると、いろいろな形があるな。見立てやすいのはどれかな。	37	○ でこぼこした形の紙は、様々なものに見立てやすいことに気付かせるために、ちぎられた紙とそうでない紙を比べられるようにする。
	4 「どんどん へんしんしりとりゲーム」をする。 友達と自分の見方は違うんだな。おもしろい 		○ 友達の見立てのよさを味わえるように、クイズ形式で友達がどの向きで何に見立てたかを話し合うようにする。
材料の追究	5 「わたしは 为什么呢ゲーム」をする。 ヒントを基に、友達が見立てたものを当てることができたぞ。自分の見立てたものと違っておもしろいな。 	3	○ 自分なりのイメージをもてるように、自分が見立てたものについて友達に話し、学び合いながら活動できるようにする。
	6 見立てる活動のよさを振り返る。 同じ紙でも形や色に気を付けて見ると、いろいろなものに見えるんだな。		○ 見立てられない子どものために、向きを変えて見るように発問したり、紙の一部分のでこぼこした形が何かに似てないか発問したりする。
鑑賞 評価			○ 色から見立てることに楽しさに気付けるように、色から自分なりのイメージをもち、見立てられた子どもを賞賛する。
			○ 見立てる活動を通して得た感じ方や考え方を味わえるようにするために、本時の活動を振り返られるようにする。